９．小名浜の歴史と文化　（全体）

●背景・課題

・　これまで市民会議では、小名浜の歴史と文化を伝え残すため、歴史と文化の散策路整備、小名川親水空間整備、富ヶ浦公園景観整備、陣屋跡地の歴史的価値の確認、米野通歴史建造物のある景観の紹介、小名浜開港の父である小野晋平翁像の広報などの活動に取り組んできた。

・　小野晋平翁像は、現状設置場所での倒壊の危険性があり、民間団体での管理には限界もある。

・　町の歴史と経緯を伝承できる方が少なくなってきている中、後世に正しく伝えるための記録や残存する建造物の有意義な保存、保管、活用の在り方を模索しなければやがてなくなってしまう。従って、こうした歴史文化を学び、継承する活動の継続が必要である。

・　また、海産物など地場食材を使った新たな食文化など、新たな文化的な動きもあり、まちの魅力づくりや個性化に活かしていくことが課題である。

●目標・方向性

残そう 伝えよう まちの歴史と魅力・・・・歴史が感じられ市民が癒される空間づくりを目指して、桜の名所でもある富ヶ浦公園に焦点を絞り、歴史文化資源の利活用方法の工夫や環境向上、アクセス条件整備等の活動を継続し、訪れたくなる空間づくり、その情報発信等を続ける。併せて、小名浜の歴史文化を学び合うとともに、地区の食文化など新たな文化要素を育て、小名浜のブランディングに活かしていく。

●計画内容

★富ヶ浦公園の環境整備

・　憩いの空間創造のため、草刈りを中心とした富ヶ浦公園の環境維持の活動を継続する。市民によるボランティアのほか、企業の定期的な支援、また行政の支援を求めることにより、快適な公園空間の提供、景観形成を目指す。

・　富ヶ浦公園へのアクセス路について、人が通ってみたくなる仕掛けづくりなど、魅力向上のための整備を進めていく。

★小野晋平翁像の移転

・　小名浜開港の父として歴史的偉業を遂げた小野晋平翁像について、適切な場所への移転を促進する。

・　富ヶ浦という場所に限定することなく、歴史の伝承、維持管理責任も含めて適切と判断される県や市の所有施設内への移転を中心に、粘り強く行政に求めていく。

★公園利活用方法の新たな分野の構築

・　富ヶ浦公園の空間を活用した魅力向上の可能性のあるイベントの企画、実施など、新たな活用分野の開拓を進める。

・　市民や観光客の来訪機会を増やすための様々な利活用方法を検討する。

★富ヶ浦公園の魅力の周知

・　富ヶ浦公園の花見情報、イベント情報、見晴らし風景、歴史的背景や代官所、陣屋等の紹介情報など、インターネットや各種媒体を活用して周知・情報発信を図る。

★小名浜の歴史文化の学び合い

・　「小名浜みなと学」などを通じて、地区の市民が小名浜の歴史文化、港や海にまつわる、市民が「知りたい・知っていると楽しくなる」情報を学び合う場を設け、地区への愛着・誇りを育てる活動を継続していく。座学による学習のほか、施設見学、まち歩き等の“まち探検”を行う。

★多様な新しい文化の盛り上げと発信

・　小名浜ではサンマやカツオ等、地の魚を使った豊かな食文化があるが、これを大事にするとともに、資源量が多い魚介類を食べるというアクアマリンふくしまによる HAPPY OCEANS 運動や市の魚食推進の取り組み（いわき七浜さかなの日）といった新たな文化の盛り上げ、ブランディング等を支援し、その紹介、情報発信により新しい交流を生むきっかけをつくっていく。

●役割分担・行動

市民会議のアクション	・富ヶ浦公園の草刈りを中心とした環境整備活動 ・小野晋平翁像の移転陳情の継続 ・公園の新たな利活用方法の検討と実施（イベント等） ・富ヶ浦公園の情報発信 ・「小名浜みなと学」などの活動 ・「食」など新たな文化活動の盛り上げと情報発信
民間・一般市民	・富ヶ浦公園の草刈りなど環境維持活動への支援 ・新たな文化創造活動
行政への要望	・公園の環境整備（アクセス路を含め） ・小野晋平翁像の移転の受け入れ

●タイムテーブル

実施項目	実施主体			実施時期		
	市民	民間	行政	短期（～５年後）	中期（5～10 年）	長期（10 年後～）
★富ヶ浦公園の環境整備	○	○	○	○	○	○
★小野晋平翁像の移転	○		○	○	○	
★公園利活用方法の新たな分野の構築	○	○		○	○	
★富ヶ浦公園の魅力の周知	○			○	○	○
★小名浜の歴史文化の学び合い	○			○	○	○
★多様な新しい文化の盛り上げと発信	○	○		○	○	○

※「市民」＝主に市民会議

富ケ浦公園の桜

富ケ浦公園の草刈り清掃

小野晋平翁胸像